



次期「初等中等教育におけるシステム間連携の ための相互運用標準モデル（略称 相互運用標準 モデル）」の検討・改訂方針について ～ 技術仕様のアップデート状況 ～

2025.9.24

技術仕様の原則

- 目的や対象範囲（スコープ）を明確に
 - ✓ 標準モデルでは4つのコンポーネント間の相互運用性を規定することによって、デジタル学習基盤のハブとして機能し、データ利活用の基盤を作ると同時に使い勝手を向上させることを目指す
 - ✓ システム間連携の技術仕様を規定し（協調領域）、機能や画面デザインなどシステム内の詳細は規定しない（競争領域）
- 出来るだけシンプルに
 - ✓ 標準化する価値がある部分に絞り、実装もメンテナンスもしやすい簡潔な規定が望ましい
- 持続性を担保
 - ✓ 実装し利用されているものが将来に渡って無駄にならないように、持続的にアップデートが行われる必要がある
- 実証可能性
 - ✓ （適合性評価に含まれる接続テストで対応）

今年度の検討の観点①

現状の技術仕様への認識・課題に基づく整理

- 連携技術仕様（学習eポータル、学習ツール、校務支援システム、LRSの4つのコンポーネント間）の見直し
⇒標準モデルVer.5.00までではほぼカバーされており、大幅な追記事項はない。
- 標準モデルが依拠している、国際技術標準規格（1EdTech LTI、1EdTech OneRoster CSV、ADL/IEEE xAPI）の動向
⇒認識している限り大きなアップデートの予定はなく、それに伴う変更も生じない見込み
- Ver.5.00で課題として記述されている項目
⇒項目により、議論の成熟状況や対外的な状況を踏まえて、引き続き検討。
- ステークホルダーからの新たな技術項目のリクエスト
⇒リクエストがあった場合については、オープンに検討を行う。

※ただし、相互運用標準モデルが扱うソフトウェア間の相互運用性の技術規定を越えるリクエストについては、内容により文部科学省をはじめとする各省庁の別の規定等により扱うことが考えられる。

今年度の検討の観点②

事業外の様々なグループにおける議論を参考にした検討

- ICT CONNECT 21 学習eポータルSWGにおける議論
⇒ 昨年度までと同様、多くのステークホルダーが集まるICT CONNECT 21の学習eポータルSWGを、多くの人たちからの要望を集める場所と位置づけ、意見聴取。
※ 2025/8/8に開催された同SWGにおいて、Ver.5.00の将来像と課題に記述された項目をまとめたものを、メンバーに説明し、意見を求めた。
- 関連団体、ICT CONNECT 21内の他のSWGにおける議論
⇒ MEXCBTとの連携、OneRosterのAPIによる自動化、xAPI Japanプロファイルなど、学習eポータルSWG外での議論を受けて仕様化されるべき項目も存在。関連の動向を引き続き注視しながら、大枠が固まり、本年度の事業内での検討がスケジュール的に対応可能なものに関しては、次期バージョンの反映を検討。

参考：技術標準が扱うことができない/扱うべきではない事項の例

- 扱う対象範囲を超える要求
 - ✓ セキュリティに対して明確な規定がほしい⇒ 標準モデルとは別に規定すべき。
 - ✓ わが社のシステムはこの情報が必要で、それに対する規定を追加してほしい
⇒多くのステークホルダーにメリットがあるものが標準化の条件であり、個社の個別の事情に基づくリクエストは標準化すべきものに当たらない。
- 現状のモデルの原則・理念を覆す要求
 - ✓ xxxが分かりづらいので別の方法を規定すべき
⇒ 現状でも標準モデルに規定のない方法の実装を妨げるものではない (競争領域)。
- 不要な肥大化を生む要求
 - ✓ あの技術規格は良くできているから採用すべき
⇒ ニーズやコストなどに見合うものであることが条件。
 - ✓ もっと詳細に規定してほしい
⇒ ニーズやコストなどに見合うものであることが条件。

参考：Ver.5.00で技術仕様の将来像と課題として挙げられていた項目

- 5.1 学習eポータルとさまざまな学習ツールとの連携の強化
 - 5.1.1 LTIによる認証とアカウント管理の不要化
 - 5.1.2 LTI Coreを利用したユーザー属性情報の連携
 - 5.1.3 LTI Coreの事前設定の簡易化
 - 5.1.4 単元ごとの細分化による利便性の向上
 - 5.1.5 LTI Deep Linking 2.0 によるツールとのきめ細かな連携
 - 5.1.6 相互運用性の確立のためのメタデータの標準化
 - 5.1.7 学習内容に関するより詳細な共通単位の活用
 - 5.1.8 スケジュール管理やタスク管理機能
 - 5.1.9 MEXCBTとの安定した連携
- 5.2 データに対するアクセス権の整理と技術仕様
- 5.3 校務支援システムと学習eポータル間の連携の強化

参考：Ver.5.00で技術仕様の将来像と課題として挙げられていた項目

5.4 スタディ・ログの利活用

- 5.4.1 連携されたスタディ・ログのダッシュボードによる見える化
- 5.4.2 連携されたスタディ・ログの分析とリコメンド
- 5.4.3 スタディ・ログの進学や転校時の扱い
- 5.4.4 スタディ・ログの学習者へ返還
- 5.4.5 スタディ・ログの校務支援システムとの共有
- 5.4.6 教育ビッグデータ
- 5.4.7 複数の学習ツールを横断したデータ分析
- 5.4.8 xAPI以外のデータ標準への対応

5.5 生成AIの活用

5.6 有料ツールの利活用

- 5.6.1 課金とアクセス管理の連動

5.7 文字セットや文字コードの標準化による利便性の向上

5.8 技術面以外の倫理的、法的、社会的課題（ELSI）への対応